

会長からの メッセージ





台南水道と濱野彌四郎

土木学会第98代会長

阪田 憲次



れたと言われている。

八田與一のことは、その生涯が劇的であり、最近映画化されたこともあり、よく知られているが、濱野彌四郎のことは、それほど知られていないように思われる。このような、有名、無名を問わず、多くの土木技術者が台湾において、その生涯をささげ、台湾の人びとが健康で、豊かに暮らすことのできるよう、社会基盤整備によって貢献した。そこに、土木技術者の社会的使命を見るときも、それを全うすることにより、自らの生命の悠久を願った土木技術者の熱い思いに強い共感を覚える。

浄水場の構内には、濱野彌四郎の銅像があり、その台座には、友人木村匡によつて書かれた濱野彌四郎の業績が刻まれた銘板があつた。内容は、上述のことが217文字の漢文で簡潔に書かれていた。この銅像の建立発起人の一人に、烏山頭ダムで有名な八田與一がいる。八田與一は、台湾において濱野彌四郎の指導を受けた土木技術者の一人である。現在の銅像は、最近復元されたもので、元の銅像は戦時中に金属資源として供出されたと考えられる。しかし、銘板は元のもので、戦時中にも剥がされることがなかった。それが、台湾に貢献した技術者を称えるものであるという理由で保存されたと言われている。

昨年12月12日、台湾台南縣山上郷山上村で行われた「台南水道」土木学会選奨土木遺産受賞記念式典に出席した。山上村は、台南市中心部より約20km東方にある小さな村で、当日は、台南縣長（知事）の蘇煥智氏、土木学会台湾分会長の李徳河教授、および内閣公共工事委員会副大臣陳振川（J. C. Chen）氏が出席され、約100人の村人立

ち会いの下、証書および銘板の授与を行った。この浄水場は、1922年に完成し1982年にその役目を終わっているが、式典の行われた濾過器室はきれいに保存されていた。この浄水場は、日本人技師濱野彌四郎（1869～1932年）によつて、設計・建設されたものである。濱野彌四郎は、1893年に帝国大学工科大学土木工学科（東京大学

工学部土木工学科）に入学し、お抱え外国人教師バルトン（William K. Burton）の教えを受けた。なお、当時の工科大学長は、土木学会初代会長の古市公威である。1896年に工科大学卒業後、濱野彌四郎は、バルトンとともに台湾に渡り、その後23年間の長きにわたり台湾に滞在し、主要都市の上下水道、とくに上水道はすべて、その手によつて完成さ